

平成30年3月8～9日の低気圧に伴う 降雨による釧路川の出水概要【速報版】

※本速報に記載されている数値や図表は、平成30年3月12日現在の速報値であり、今後、変更となる可能性があります。

平成30年3月12日
国土交通省北海道開発局
釧路開発建設部



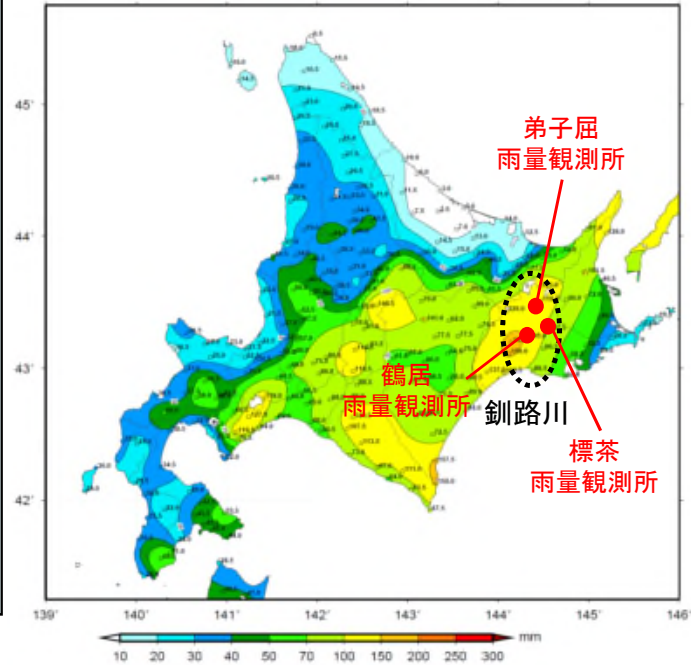
平成30年3月9日 釧路川における出水概要

3月8日から9日にかけて、前線を伴った低気圧が太平洋東部を通過し、釧路川の流域に断続的に激しい雨が降り続けました。24時間の降水量は、弟子屈（てしかが）で119mm、標茶（しべちゃ）で87mm、鶴居（つるい）で145mmを観測し、3月としては統計開始以降で最も多い記録となりました。

気温の上昇に伴う融雪などの要因もあって、釧路川標茶水位観測所では「氾濫危険水位」を超え、昭和35年3月出水に次ぐ戦後2番目となる水位を記録しました。

この大雨により、標茶町などで浸水被害が発生しましたが、釧路開発建設部では、排水ポンプ車による内水排除を行うなど浸水被害の拡大防止に努めました。

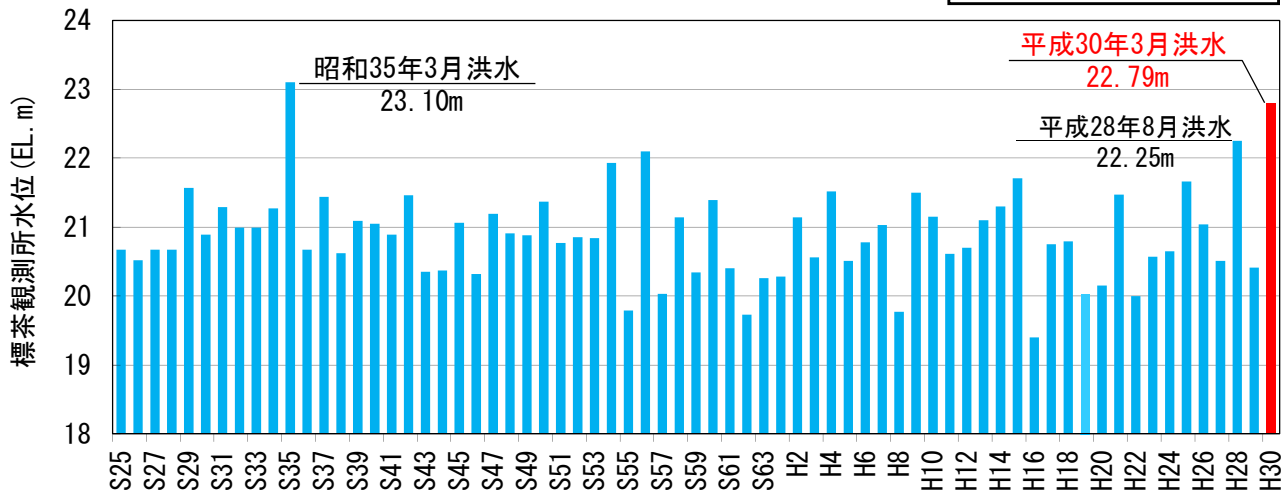
釧路開発建設部では、これまで進めてきた河川整備によって水位低下を図りました。これにより、今回の出水では、各所で局所的な浸水被害が発生したものの、破堤はん濫等の甚大な被害は発生しませんでした。



アメダス降水量分布図（総降水量）
平成30年3月8日～9日 21時
（一般財団法人 日本気象協会提供）

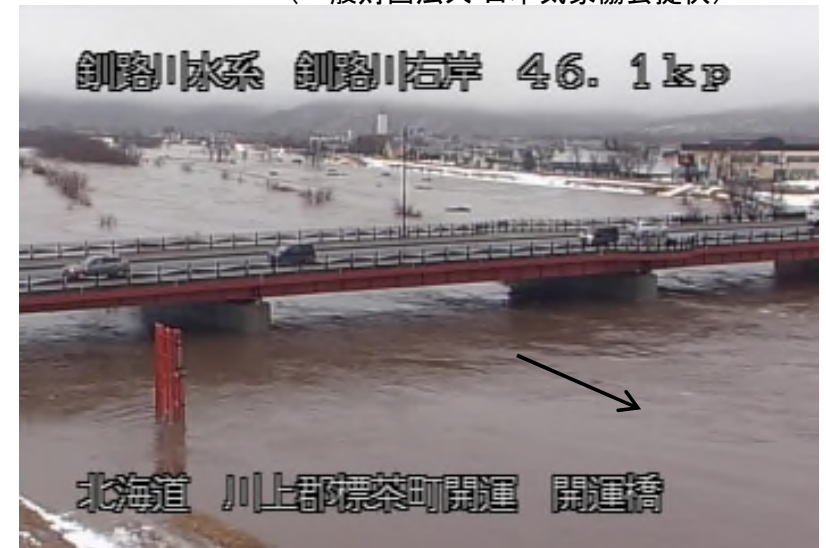
※速報値のため、数値等は変わる可能性があります

今回の出水（速報値）



釧路川(標茶水位観測所) 年最大水位

H15以前は測地2000標高(m)に換算



標茶水位観測所(KP46.1付近)の状況
平成30年3月9日 17時 最高水位時

釧路川の出水状況・浸水状況

釧路川流域では、3月8日の夜から9日にかけての断続的な激しい雨により、釧路川の標茶水位観測所で氾濫危険水位を超過しました。また、釧路川や新釧路川・オソベツ川の水水位観測所5箇所（弟子屈観測所、岩保木水位観測所、広里水位観測所、鳥取水位観測所、オソベツ水位観測所）において、氾濫注意水位を超過しました。また、標茶町で内水氾濫が発生しました。

釧路川の浸水状況(標茶町付近)



標茶町の避難勧告及び指示の状況

	釧路川流域
避難勧告・避難指示を出した自治体	標茶町
避難勧告、指示による避難対象者	1,270世帯 2,640人

※避難対象者数は、延べ人数であり重複を含みます。
※避難対象者数は、標茶町の速報値情報をもとに算出しています。



平成30年3月出水に対し河川整備が水位低減効果を発揮

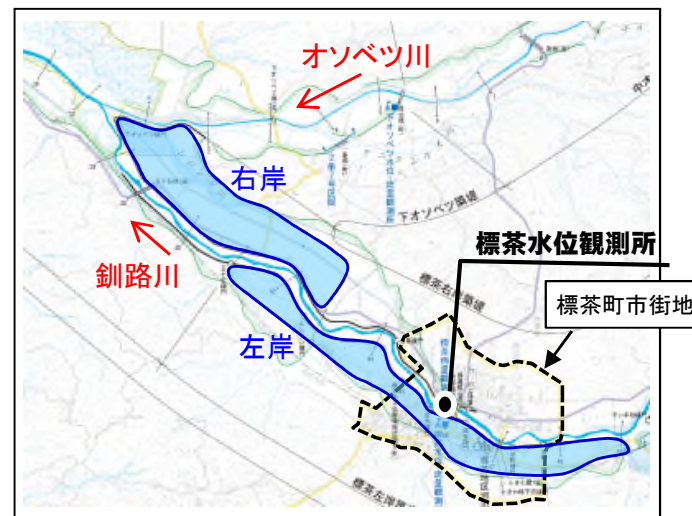
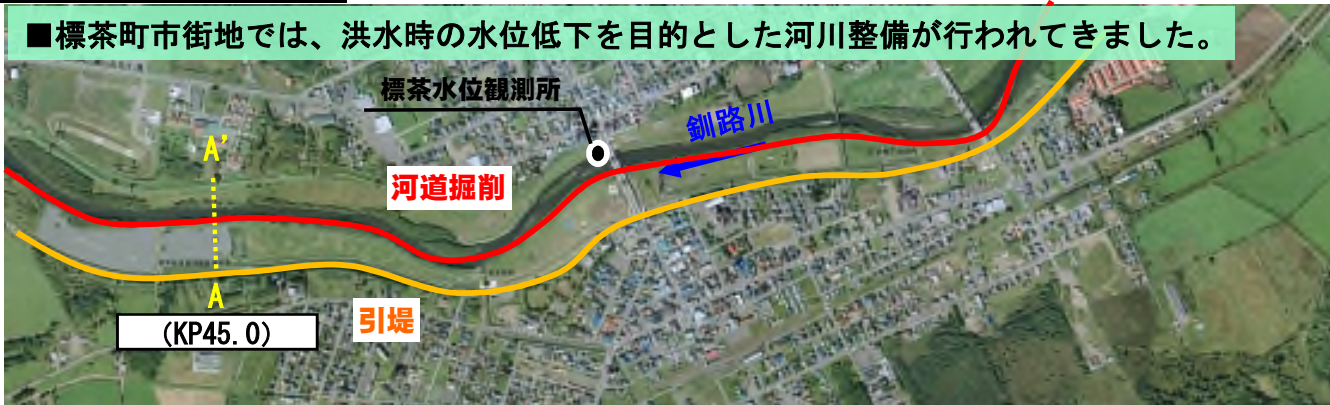
平成30年3月9日の前線を伴った低気圧による大雨で、釧路川において出水が発生しました。標茶水位観測所では、昭和35年3月出水に次ぐ、戦後2番目の水位を観測しました。

これまで実施してきた河道掘削や引堤（川の断面を広くするため堤防を引く）などにより、河川整備前と比べ約80cmの水位低減効果を図ることができました。

仮に河川整備が実施されてなければ、標茶町市街地付近において計画高水位を上回る洪水となり、堤防が破堤した場合には、約350ha、約1,600戸の浸水が発生したおそれがありました。

河道掘削、引堤箇所

河川整備をしなかった場合の浸水想定範囲(平成30年3月出水)

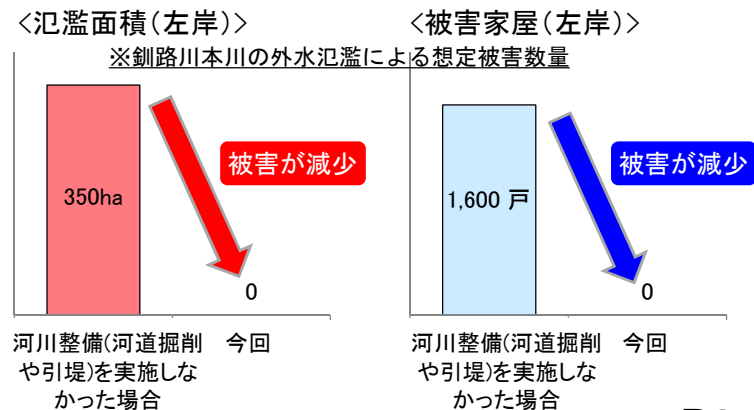


河川整備による水位低減効果



※計画高水位は、河川整備の目標としている水位

※速報のため、数値等は変わる可能性があります。



釧路開発建設部の取組

釧路開発建設部では、昼夜を問わずパトロール等による河川情報の収集や樋門施設等の確認を行い、被害状況の早期発見に努めました。

標茶町、弟子屈町などに現地情報連絡員(リエゾン)を派遣するとともに、標茶町や弟子屈町へ排水ポンプ車・照明車を派遣しポンプ車を稼働し浸水排除を実施しました。

また、釧路川総合水防演習(H28.6)や標茶地区水防災タイムライン(H29~)等の取組により、ホットラインや水位予測情報の提供などがスムーズに行われ、被害の拡大防止に努めました。



撮影日時：3月9日17時頃

排水ポンプ車による内水排除活動(下オソベツ)



撮影日時：3月9日13時頃

樋門施設等の確認(樋門操作時の状況)



撮影日時：3月9日18時頃

照明車の活動による夜間の排水活動(標茶町市街地)



撮影日時：3月9日18時頃

切迫した環境の中でのリエゾンによる情報収集(標茶町役場)